議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

①フードドライブ

福祉と連携した取組み

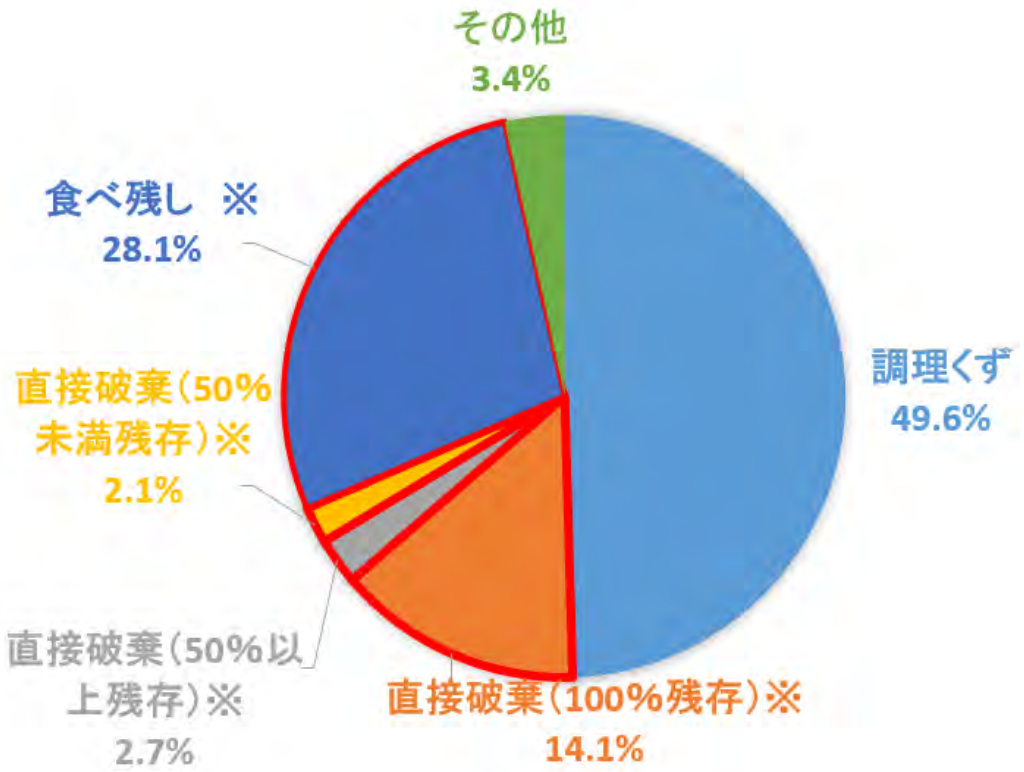
食品ロスの現状

○組成調査結果（R4.6実施）

・厨芥類（生ごみ）中に食品ロスに該当する廃棄物が約47%混入している。

項目	重量　kg	割合　%
調理くず	31.94	49.6
直接破棄（100%残存）※	9.10	14.1
直接破棄（50%以上残存）※	1.74	2.7
直接破棄（50%未満残存）※	1.36	2.1
食べ残し　※	18.10	28.1
その他	2.22	3.4
合計	64.46	100.0

★赤枠内が食品ロスに該当する廃棄物



福祉と連携した取り組み

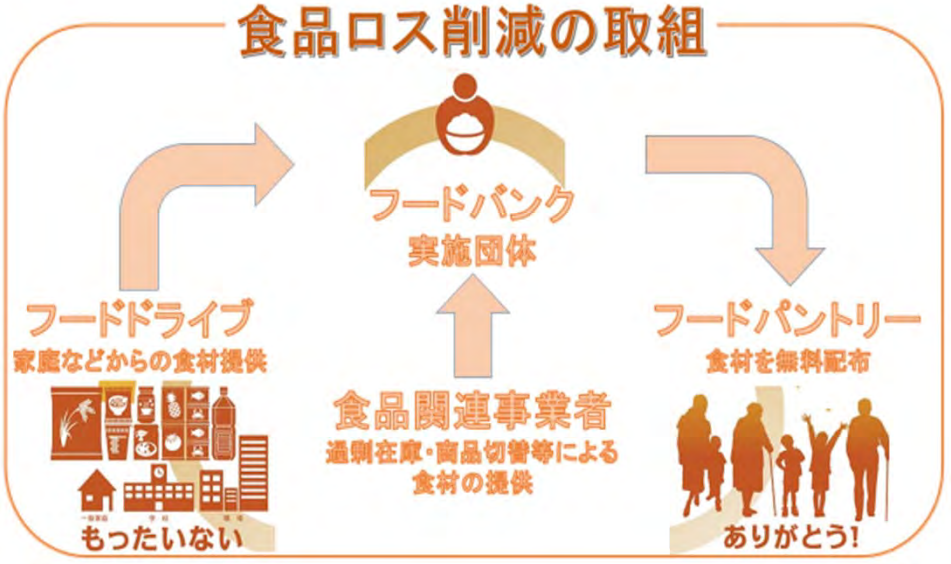
○フードドライブ（リデュース）

・スーパーマーケット、社会福祉協議会、市が連携し、家庭や事業所からまだ食べられる食品を集め、困窮者支援団体に配布

○フードバンク（リデュース）

・スーパーマーケットと市が連携し、食品を母子寡婦福祉会に譲渡**（毎月1回）**

フードドライブポストの設置状況
（東野コミュニティセンター）



議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

令和6年度フードドライブの実績

kg表示(全体)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	R5
バロー恵那店	12.1	5.0	23.9	26.6	33.9	17.8	3.6	22.0	21.1	6.8	4.8	1.5	179.2	14.9	-
バロー正家店	5.6	13.0	20.2	14.6	13.4	4.7	39.2	16.7	5.7	9.0	6.1	2.5	150.6	12.5	-
バロー岩村店	3.7	0.9	2.0	9.8	12.7	0.0	14.9	7.1	63.1	10.0	6.8	8.5	139.5	11.6	-
バロー明智店	2.1	2.9	1.4	4.2	0.8	0.5	50.2	13.5	18.0	15.3	7.6	3.2	119.6	10.0	-
コープぎふ恵那店	15.9	45.8	10.2	33.7	15.0	40.7	8.0	7.8	32.0	51.1	9.9	9.3	279.5	23.3	-
東野コミセン				0.3	30.0	43.0	8.3	3.8	4.6	0.0	2.4	0.7	93.2	7.8	-
Vドラッグ恵那店								4.8	2.2	42.7	7.8	1.4	58.9	4.9	-
合計	39.4	67.6	57.8	89.2	105.8	106.7	124.2	75.8	146.7	134.9	45.4	27.2	1,020.4	85.0	627.0

kg表示(うち、お米)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	R5
バロー恵那店	0.0	0.0	6.5	6.0	11.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	25.5	2.1	-
バロー正家店	0.0	0.0	10.0	6.0	6.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	3.3	-
バロー岩村店	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0	26.0	2.2	-
バロー明智店	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.5	3.8	3.5	3.0	3.6	0.0	31.4	2.6	-
コープぎふ恵那店	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	42.0	3.5	-
東野コミセン				0.0	15.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.0	2.9	-
Vドラッグ恵那店								0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	1.7	-
合計	0.0	10.0	16.5	22.0	32.0	35.0	35.5	3.8	31.5	30.0	3.6	0.0	219.9	18.3	263.0

※令和5年度は10月以降の合計数値

フードドライブの実績等

ア、設置店舗・市民の協力

	R6年度		R7年度
設置店舗	常設回収ポスト設置 ・バロー市内4店舗 ・コープぎふ恵那店	常設回収ポスト追加 ・東野コミセン ・Vドラッグ恵那店	他店舗へ展開
			公共施設へも展開
社会福祉協議会	設置店舗からの食材回収及び食材活用団体へ配布		
	フードバンク　毎月第4木曜日　ふれあいエコプラザで実施 提供量：1,340kg、金額換算：1,072,499円		
市民	常時協力		常時協力

イ、継続した取組み

・協力事業所の拡大や新規の申し出による拡大

・市民への周知を行い協力者を広げる

②廃食用油の回収促進

家庭における廃食用油回収について

高純度バイオディーゼル燃料の活用

市内の家庭から出た廃食用油を回収し、
「高純度バイオディーゼル」を精製

軽油に5%のバイオディーゼルを
混ぜ合わせた「B5燃料」をゴミ収集車
（パッカー車１台）に給油開始（R7.6～）

廃食用油の回収状況

○現状：回収拠点26+常設1（エコプラザ）　　（給食センター）

回収実績	R4	R5	R6
拠点	1,428L	1,452L	1,513L
エコプラザ	1,886L	1,677L	1,613L
合計	3,314L	3,129L	3,126L

※毎月第2日用を挟む土日月の3日間が回収日

R6	給食センター排出量
恵那	3,618L
山岡	1,674L
明智	1,782L
合計	7,074L

- **課題**

  回収量が年々減少（H30実績5,702L）　（油の消費量？）

廃食用油の現状と課題

・回収量増加の取り組み（案）と結果

・スーパーに設置することは効果的か？

→管理できないため設置不可

・毎月の不燃物・資源ごみの回収に項目追加？

→油の回収ができないため設置不可

・公共施設に常設回収場所を設ける？

→管理できないため設置不可

このことから、回収拠点は増設せず、
出しやすくするため、令和７年４月から
ペットボトルに入ったままでも回収可能とした。

③リユースの取組み

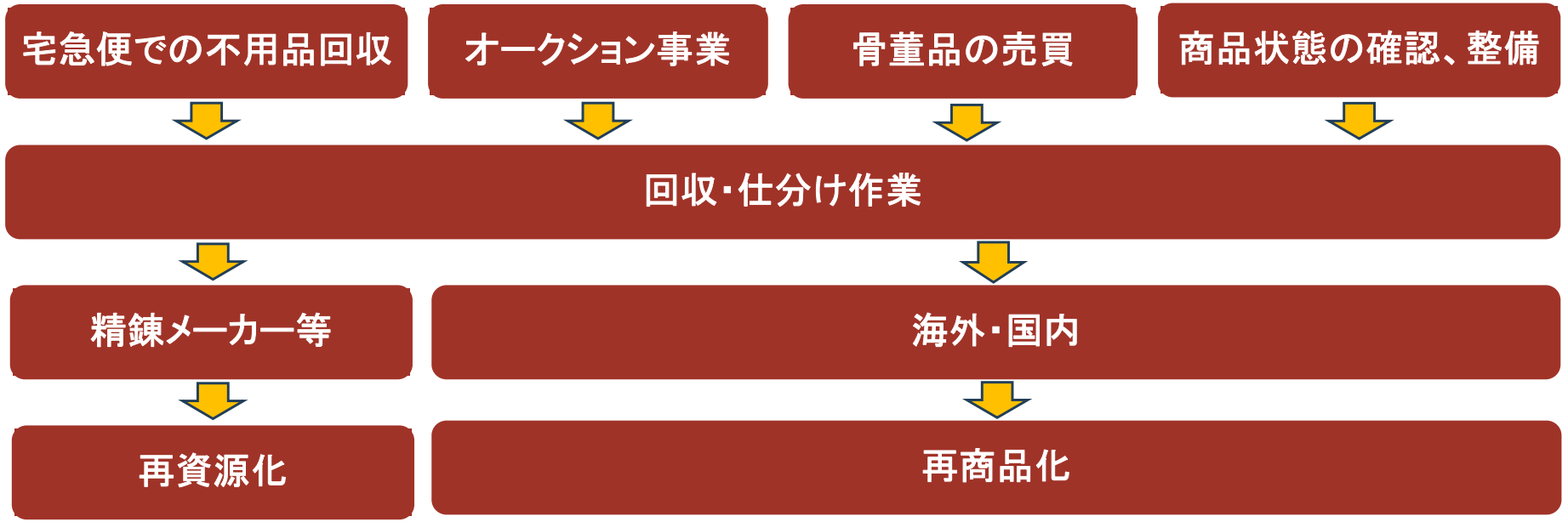
廃棄物を資源として活用する取り組みについて

議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

・リユース事業とは

限りある資源を有効に活用し、環境負荷を軽減することで、持続可能な社会の実現に貢献すること。具体的には、不用品を廃棄するのではなく、他の誰かに使ってもらうことで、資源の浪費を抑え、環境への負担を減らすこと。

- リユース事業のイメージ



議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

（株）浜屋と回収有価物の売買単価契約を締結（R6.5.15）

家電をはじめ家具雑貨や金属資源までとあらゆるものを広く買い取り、再生可能なものは国内だけでなく国外にも輸出。
再利用できないものは国内で再び資源として活用。

※衣類は買取なし（東海資源へ）

- 令和6年度実績

項目	数量	備考
品目数	66品目	
搬出数量	1，741点	
搬出重量	2，587kg	
販売金額	131，421円	

④資源回収の取組み

廃棄物を資源として活用する取り組みについて

議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

地域資源回収拠点

・市設置箇所　11地域(※三郷町、明智町は既存の拠点があったため)

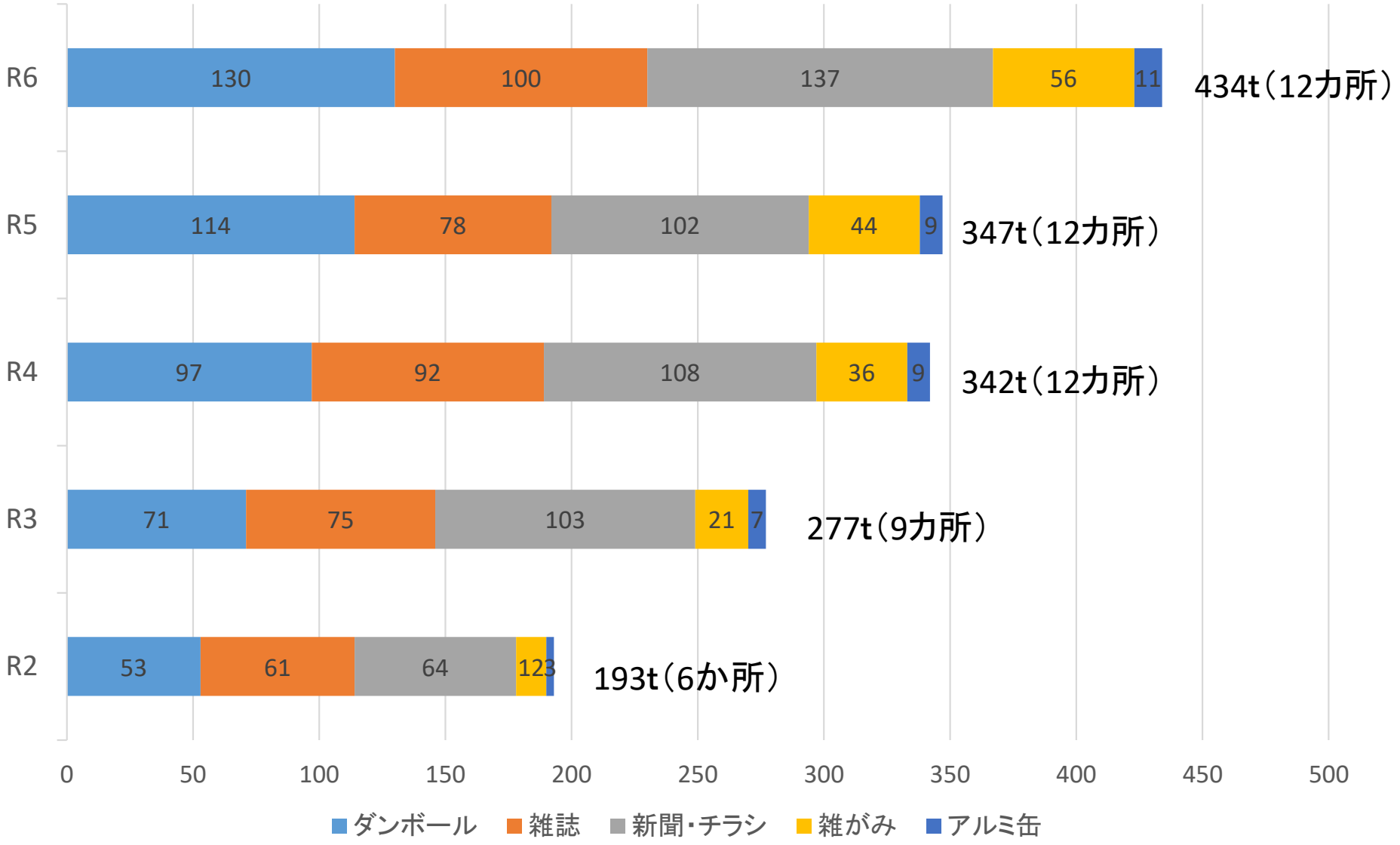
12か所(※大井町の東中学校、第2小学校の2ヶ所設置しているため)

種別	回収量・収益		
	令和6年度	令和5年度	増
段ボール	129.68t	113.63t	16.05t
雑誌	99.65t	77.61t	22.04t
新聞・チラシ	137.13t	101.92t	35.21t
雑がみ	56.27t	44.45t	11.82t
アルミ缶	11.29t	9.08t	2.21t
販売金額	2,310,730円	1,819,950円	490,780円
奨励金	2,073,720円	1,653,484円	420,236円

・前年比増加要因：小中学校PTAなどが資源回収を取りやめたため

議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

（参考）地域資源回収拠点回収量の推移（t）



⑤資源循環の取組み

資源循環促進支援事業について

議題３　廃棄物減量化に向けた具体的な取り組みについて

環境省は、循環経済（サーキュラーエコノミー（ＣＥ）への移行を促進することを目的に、資源循環の取組を推進する基盤の構築及び取組をけん引する中核的な人材（市職員）の育成を目指す自治体を支援する「地域の資源循環促進支援事業」を令和７年度から開始しました。

1.事業イメージ

本市が県の推薦を受け応募し、**『採択』**されたことから、国の伴走支援を受け、**資源循環に関するビジョン作成**に取り組みます。

2.本市の取組

経済団体より**古紙リサイクル商品開発支援の要望**があるが、市場ニーズや事業判断を把握することが困難なため、解決策を模索している状況にある。今後は、環境省の伴走支援を受けながら**経済団体等との連携強化やニーズ調査を進め、新たな循環モデル構築を図る**とともに**市内事業者で資源循環の取組が拡大することを目指す。**

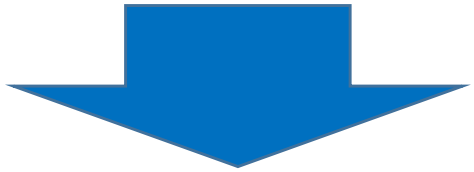
⑥生ごみの減量化

生ごみ処理機等補助金について

生ごみの現状

- 可燃ごみの組成調査によると厨芥類が16.4%
- 成分調査によると水分が37.6%

（※令和６年11月検査結果による）



・生ごみを分別処理することで、ごみの減量化の推進
・堆肥化した場合は、その受け入れ先が課題

生ごみ処理機等補助金について

（1）生ごみ処理機等の補助金をR6.6月より受付開始

・補助対象：①生ごみ処理機（電気式、手動式）
　　②堆肥化容器（設置型もバッグ型も可）
　　③基材（ダンボールコンポスト含む）

・補助率：1/3（上限①20,000円、②5,000円、③2,000円）

・令和6年度予算：1,400千円

種類	電気式	設置式	ダンボール式	LFCコンポスト
特徴	室内に設置でき、ニオイの心配もなく、虫が苦手な人にも向いています。	庭などに設置するもので、生ごみのほか落ち葉や雑草にも向いています。	低予算でたい肥づくりの手間を楽しみながら行いたい方に向いています。	バッグタイプのスタイリッシュな見た目で、少人数世帯に向いています。

生ごみ処理機等補助金の実績

	予算額	決算額	件数
令和6年度 （実績）	1，400千円	612千円	70件
令和7年度 （途中経過）	1，020千円	60千円	7件

※令和６年度は６月から、令和７年度は６月末現在の数値
※令和６年度は７件/月、令和７年度は2.3件/月、現時点で前年度の
　１/３程度の申請となっている。

この補助金を知ってもらえるよう制度の周知と併せて、処理機等の効果についてもPRする必要がある。（え～なび、市民メール等）

「ごみ処理施設の故障に伴う市非常事態宣言」発出

ごみ処理施設の故障に伴う
恵那市非常事態宣言

●エコセンター恵那においてモーターの故障が発生しました。
●これにより、可燃ごみの処理ができなくなりました。
●こうしたことから、市では、非常事態宣言を発出し、市民及び事業者の皆様には、可燃ごみの排出量削減にご協力をお願いすることとします。

【期間】令和7年7月2日(水)～7月18日(金)

市民及び市内事業者に対するお願い

① すぐに処分する必要のない生ごみ以外の可燃ごみについては、家庭及び事業所内で一時的に保管

② ごみの分別を守り、菓子箱、封筒、コピー用紙などの雑がみ、段ボール、空き缶などの資源ごみは、近くの地域資源回収拠点やふれあいエコプラザへ搬出

③ 食品ロスを避け、家庭用の生ごみ処理機や、ミニコンポストを活用し生ごみの量を減らす

令和7年7月2日　恵那市長　小坂　喬峰

非常事態宣言発出中の収集量(7/3～7/16)
・ごみ回収量:358.22t
　(平常時の83.3%)
・他市搬出量:286.03t
　(中津川市、瑞浪市、多治見市、土岐市)

▲エコセンター恵那のピットの状況

※7月16日(水)付けで恵那市非常事態宣言を解除しました。ご協力ありがとうございました。

以上になります。ご意見ご提案をお願いいたします。